

インターバンクの声（2015年1月30日）

2015年も早くも12分の1が過ぎ去ろうとしており、来週の金曜日は1月の米雇用統計の発表だ。普段であればその雇用統計の結果に結びつけやすいこともあって、昨夜発表された米労働省発表の新規失業保険申請件数の内容（前週比4万3千人減）であれば、もう少し素直にドル買いとなってもおかしくないはずだが、このところのドル買いに対する市場の慎重姿勢が影響しているのか、反応は限定的だった。もっとも、注意深い市場参加者は、昨夜の数字は19日のキング牧師の生誕記念の祝日を含めた週の数字なので、通常週の数字との差異を考慮していたのかも知れない。また、スイス国立銀行〈中央銀行〉による断続的なユーロ買い・スイスフラン売りの為替介入観測が意識され、ユーロが上昇気味になっていたこともドル買いの一部妨げだったのかも知れない。それでもニューヨーク市場の昼辺りからの株価の上昇に呼応するようにドル買いも進み、ドル円は118円台中盤、ユーロ・ドルも1.12ドル台へドルが買われる場面もあった。週の締めくくりとしては、米第4・四半期のGDP速報値を確認することになるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。